

モモ病害虫の発生状況（7月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

（1）灰星病

果実での発生は、確認されませんでした。

収穫期の20日前頃から果実への感染がしやすい状態になるため、散布間隔をあけずに薬剤散布を実施しましょう。

（2）せん孔細菌病

新梢葉、果実での発生は、確認されませんでした（図1、2）。

発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

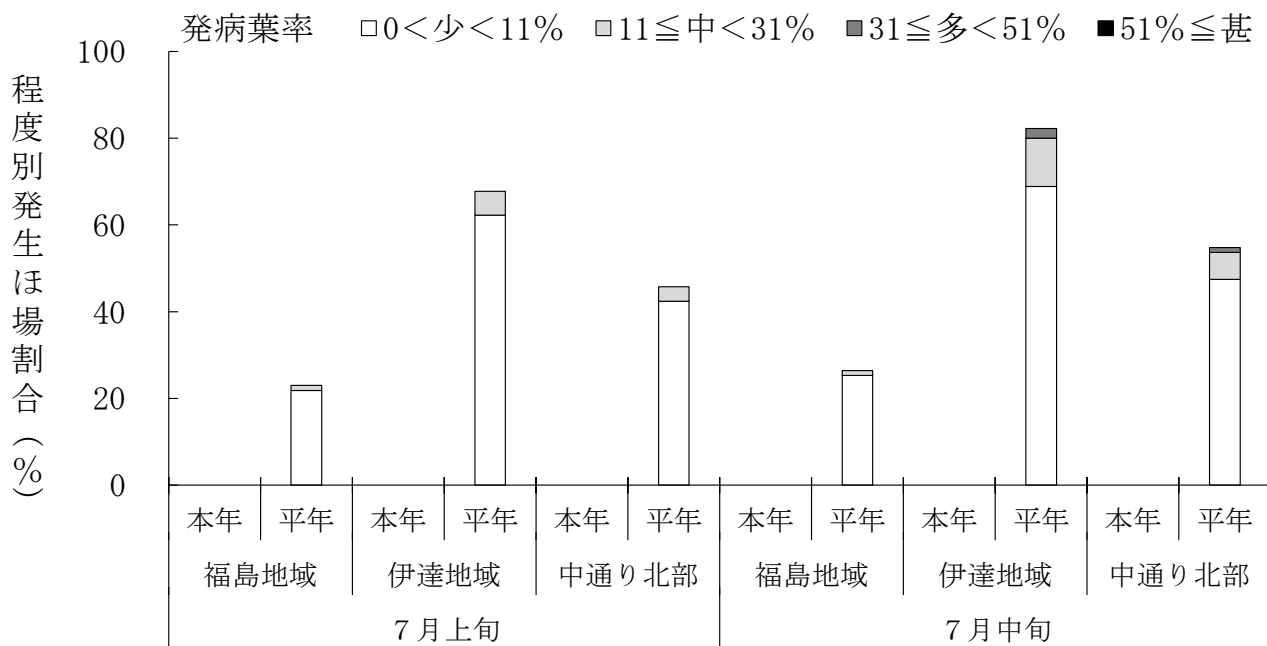


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）

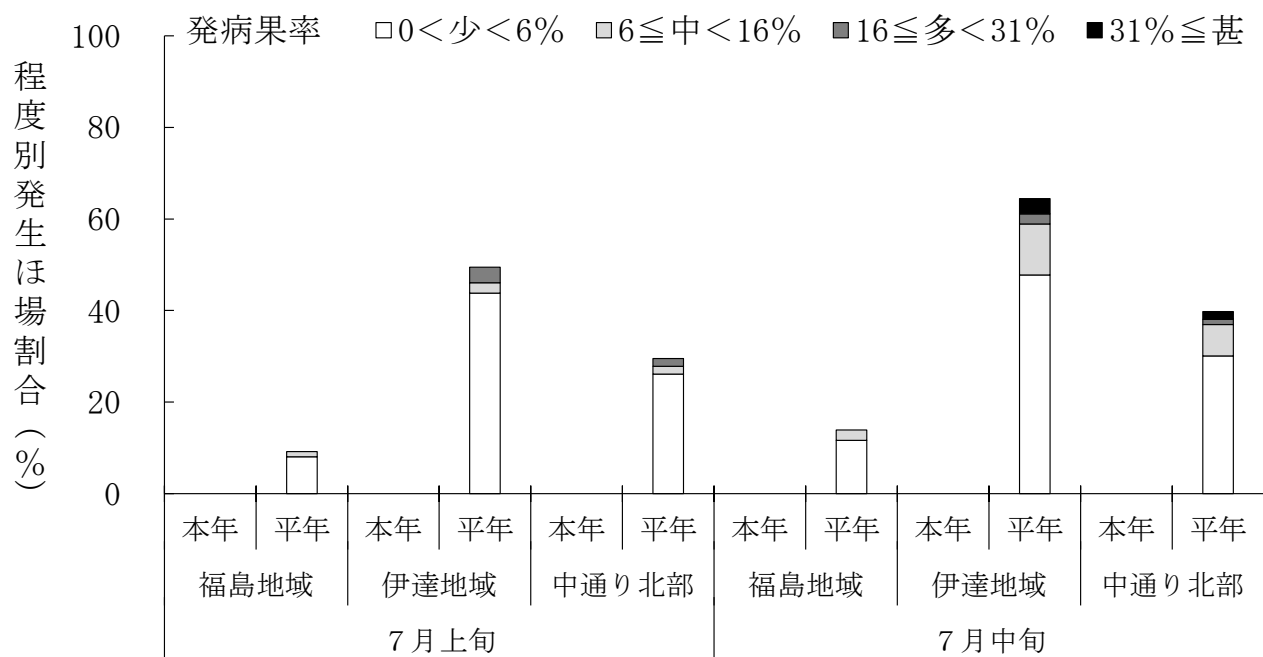


図2 モモせん孔細菌病の発生状況（果実）

(3) モモハモグリガ

7月上旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は平年よりやや高い状況でした（図3）。

今後の気温が2℃高く推移した場合、本種の第4世代成虫の誘殺盛期は8月1半旬頃と予測され、第5世代幼虫の防除適期は8月2半旬頃と推定されています（農業総合センター果樹研究所、7月15日現在）。今後の定期予報等の情報を参考に防除を徹底しましょう。

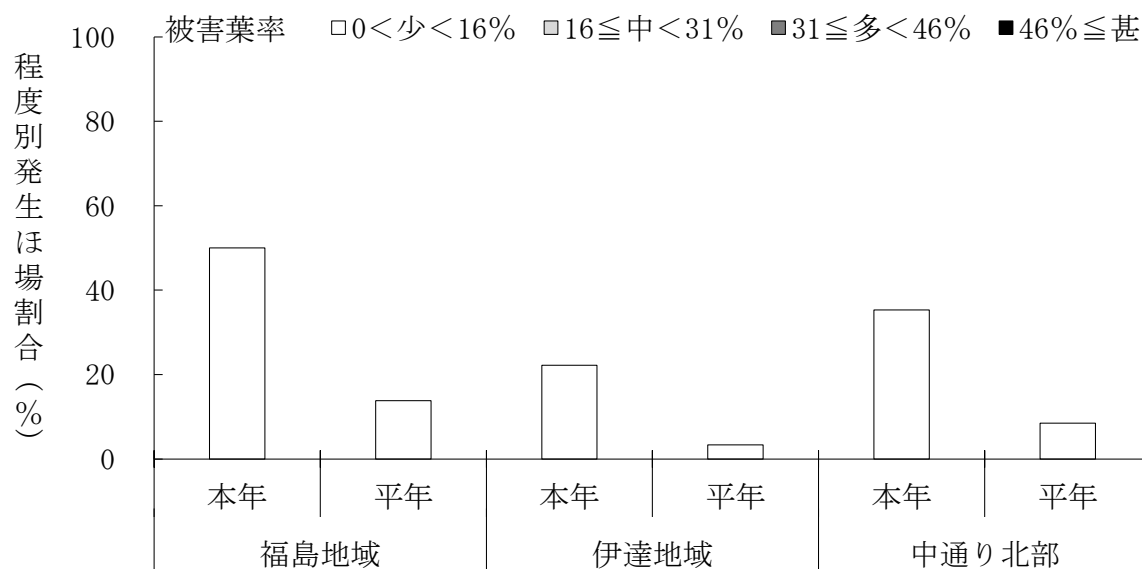


図3 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（新梢葉）

(4) ハダニ類

新梢葉での発生ほ場割合は平年より高く、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）を超える多発生や中発生のは場が確認されました（図4）。

東北地方の1カ月予報（令和7年7月24日発表）によると、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されており、今後もハダニ類に好適な条件が続くと推測されます。園地での発生状況をよく観察し、要防除水準に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月11日付け令和7年度病虫害防除情報（果樹ハダニ類）参照）。

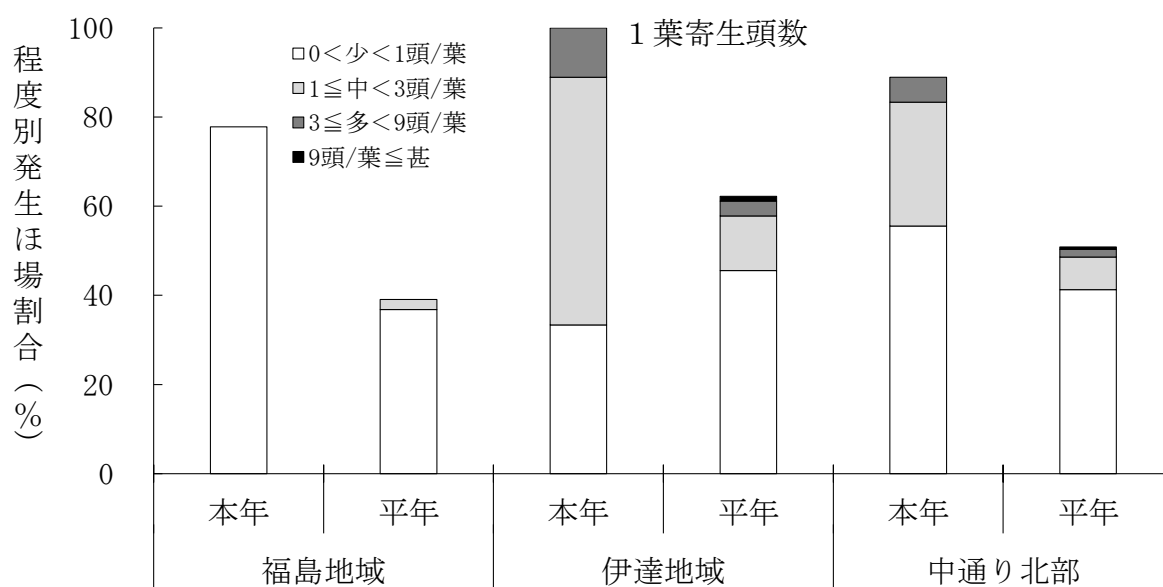


図4 ハダニ類による新梢葉への寄生状況

(5) ナシヒメシンクイ・モモシンクイガ

ナシヒメシンクイによる7月上旬のモモ新梢の芯折れ被害の発生ほ場割合は、福島地域は平年並でしたが、伊達地域では平年よりやや高く、中発生や多発生のは場が確認されました(図5)。本種第3世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃ 高く推移した場合、8月1半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は8月2半旬頃と推定されています(農業総合センター果樹研究所、7月15日現在)。近隣のモモやウメ等の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守し、中晩生種での防除を徹底しましょう。

また、モモシンクイガの発生はいずれの園も確認されませんでした。

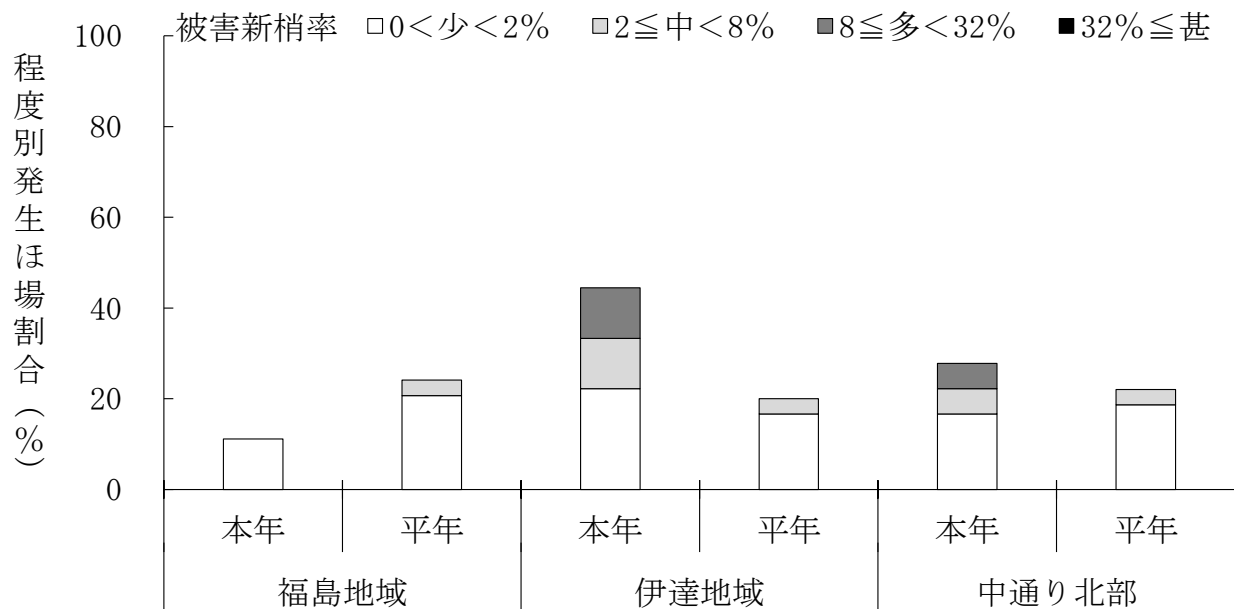


図5 ナシヒメシンクイによる新梢の芯折れ被害状況(7月上旬)

(6) シロカイガラムシ類

側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生は、福島地域では確認されませんでした。伊達地域では発生ほ場割合が平年よりやや高い状況でした(図6)。また、果実におけるシロカイガラムシ類の被害はいずれの園も確認されませんでした(データ省略)。

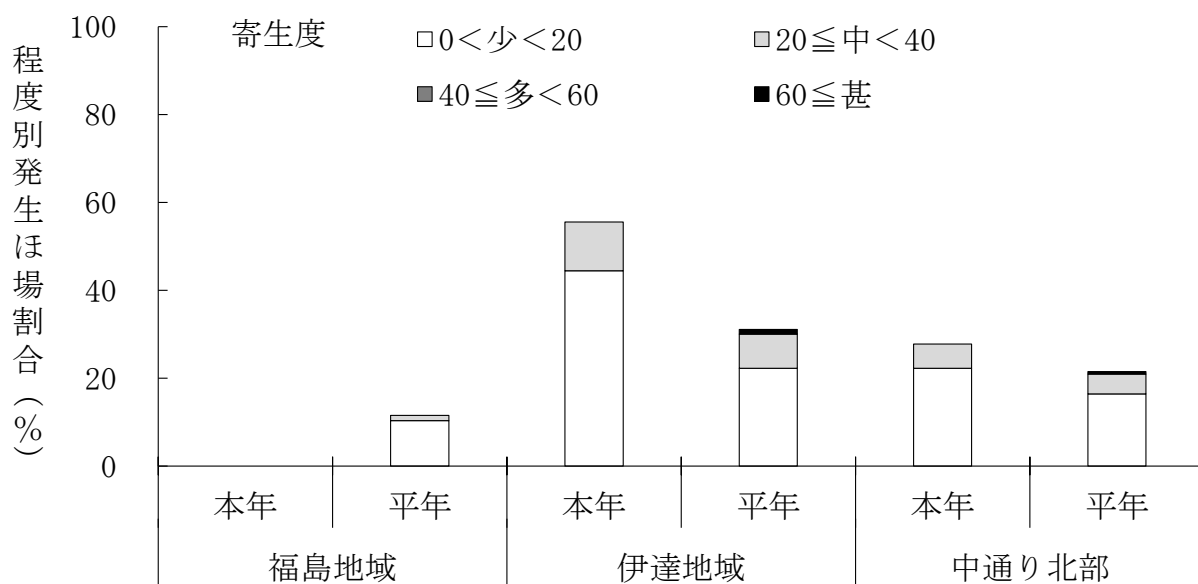


図6 シロカイガラムシ類による側枝の寄生状況(7月中旬)

また、農業総合センター内のウメほ場におけるトラップ調査の結果、ウメシロカイガラムシ第2世代と想定される歩行幼虫数が7月16～23日に前回から増加しており、今後、発生ピークを迎えると予想されます(図7、※昨年のピークは7月16～24日)。現在はモモの収穫期であるので、防除を行う際は、薬剤の選択(収穫前日数)に注意しましょう。

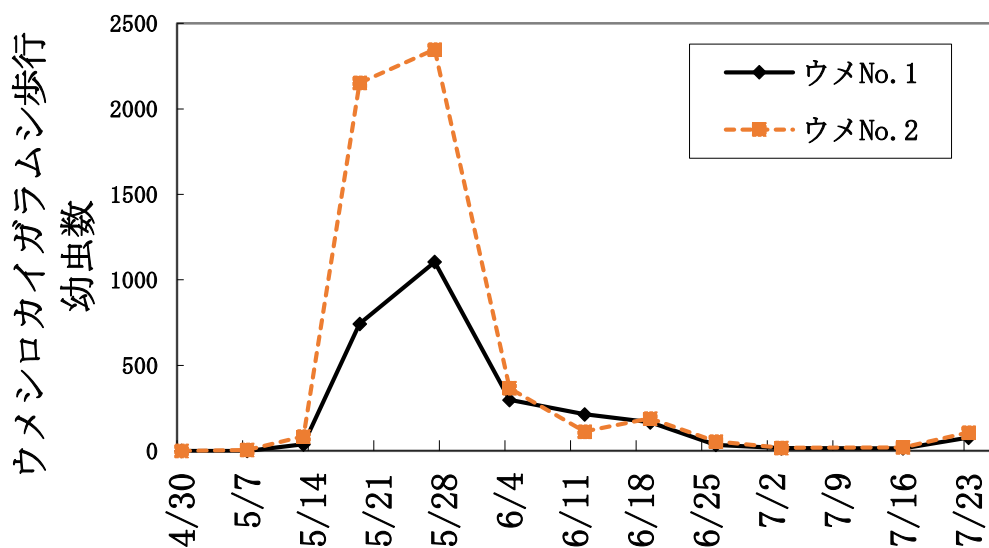


図7 ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生状況(7月23日現在、農業総合センター)

(7) 果樹カメムシ類

7月中旬の果樹カメムシ類による果実被害の発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした(図8)。東北地方の1カ月予報(令和7年7月24日発表)によると、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されており、今後も果樹カメムシ類にの活動が活発になると推測されます。園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合は、薬剤散布を実施しましょう(令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報(果樹カメムシ類)参照)。

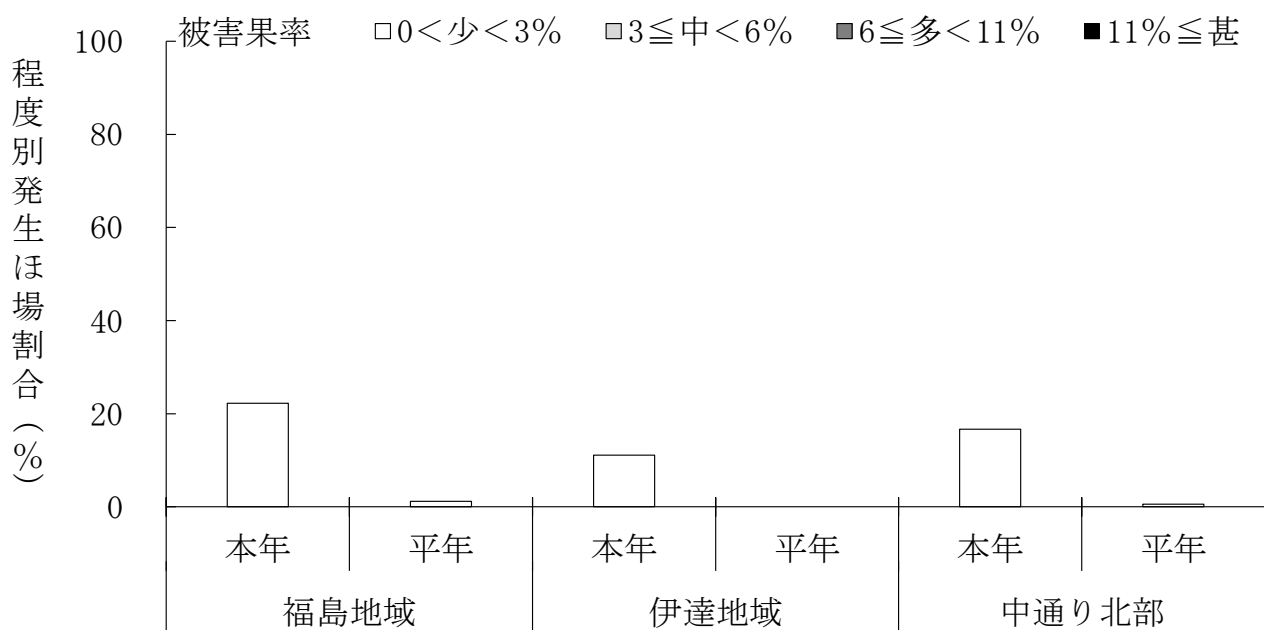


図8 果樹カメムシ類による果実被害の発生状況(7月中旬)